



## 九州ブロッククラブネットワークアクション 2018 開催報告

日 時：平成 30 年 11 月 17 日（土） 13：00 ～ 17：00

11 月 18 日（日） 9：00 ～ 12：30

会 場：阿蘇の司ビラパークホテル&スパリゾート（フラワーホール）

内 容：テーマ

『ネットワーク』を「アクション」につなぐ～ネットワークの活用、メリットの創出～』

[1 日目]

1. 共通プログラム：障がい者スポーツ

講演「陸上三段跳び日本一から車いす陸上へ」

2. オリジナルプログラム I

研修「非常事態発生！あなたならどうする？～運命のクロスロード～」

[2 日目]

1. オリジナルプログラム II

パネルディスカッション「クラブ経営における Good idea! Nice idea!」

参 加 者：227 名

### 【概要】

今回、九州ブロックでは、総合型地域スポーツクラブ間のネットワークを次なるアクションへつなげることを目的に、「ネットワークをアクションにつなぐ～ネットワークの活用、メリットの創出～」のテーマを掲げました。また、これまでの反省から、より参加者同士が情報交換することができる時間を設定することを意識し、全てのプログラムにグループワークの時間を設定しました。

[1 日目]

### 【内容】

1. 共通プログラム：障がい者スポーツ

講演「陸上三段跳び日本一から車いす陸上へ」

講師 株式会社祐和會 中尾有沙氏

陸上競技三段跳びの選手として全国制覇を果たす等トップアスリートとして活躍されていた中尾氏は、トレーニング中の怪我により下半身不随となったことや、健常者から障がい者となった今、「心のバリアフリー」の必要性や、障がい者スポーツへの理解促進について述べられました。

講演後、九州ブロッククラブネットワークアクション 2018 in くまもとプロジェクトリーダーの齋藤久允氏が全体コーディネーターを務め、参加者同士のグループワークの進行を務めました。

共通プログラムのテーマは「障がい者スポーツ」ですが、今回九州ブロックでは、その中でも身体障がい者にフォーカスし、総合型地域スポーツクラブは障がい者の方々に何ができるのかを話し合い、できることから実施していくことを共有しました。



## 2. オリジナルプログラムⅠ

研修「非常事態発生！あなたならどうする？～運命のクロスロード～」

講師 長洲クロスロード研究会 徳永伸介氏

オリジナルプログラムⅠでは、2年前に熊本県と大分県で発生した「熊本地震」の経験から、非常事態が発生した際、またその後の判断をトレーニングする必要があると考え、参加型のプログラムとして「クロスロード」というゲームを使った研修を行いました。

### Question

あなたは避難所食糧担当者です。避難所には避難者が3,000人います。現在、2,000食分の非常食が用意できた。以降の見通しは今のところない。非常食を配付しますか？

ゲームでは、上記のような例題について、各自で持っているYES・NOカード使ってグループ内で一斉にカードを示し、それぞれその回答理由についてグループ内で共有するというものです。参加者は当事者感覚で判断をする難しさを体験できたようでした。

講師の徳永氏の職業は消防士・防災士であり、これまでの経験も含め、よりリアルなお話をしていただき、参加者はゲームを通して交流や学びを深めることができました。



[2日目]

## 1. オリジナルプログラムⅡ

パネルディスカッション「クラブ経営における Good idea! Nice idea!」

これまでの反省から、参加者がより多くの情報を収集し、更に直接クラブの方同士が繋がってほしいという思いから、熊本県内で活動する21のクラブにパネリストとして登壇いただき、参加者が聴きたいテーマのブースを巡るという設定でパネルディスカッションを行いました。

7つのテーマは、開催県である熊本県でプレイベント研修会を実施した際、参加者からの声や反省をもとに設定し、21クラブそれぞれのクラブの特色にフォーカスした話をしていただきました。

全体テーマである「ネットワークをアクションにつなぐ」べく、参加者から発表者にもっと聴きたいという内容がある場合は、直接問合わせができるよう、発表クラブの情報を各参加者に配付したり、名刺交換の時間を促す工夫を行いました。



更に、各ブースのファシリテーターは全員公認クラブマネジャーもしくはアシスタントマネジャー資格を取得している方に依頼し、参加者の意見集約等を行っていただきました。

(パネルディスカッション内容については別紙参照)

## 【まとめ】

例年開催県中心部での開催でしたが、開催県の意向により、熊本地震の被災地である阿蘇市での開催をしたことにより、復旧・復興の姿を見ていただくことができたと感じます。

また、開催県でプロジェクトチームを発足し、約3年に渡り準備を進めてきたことにより、内容ひとつひとつにねらいをもって取り組むことができ、開催県運営スタッフとして60名程協力いただいたことで、九州各県からおこしの皆様へのより充実したおもてなしをすることができたと思います。

全体テーマである「ネットワークをアクションにつなぐ」のとおり、特に2日目のパネルディスカッションの発表クラブと参加者間でつながりが具体的に生まれたクラブもあるため、非常に効果的な事業であったといえます。

参加者同士での情報交換やグループワークの時間を多く取ったことにより、インプットだけでなくアウトプットもでき、今後へのアクションに繋がるアプローチができたと感じています。

(九州ブロッククラブネットワークアクション実行委員長 浅井 増雄)

※本ネットワークアクションは、東京2020応援プログラム(スポーツ・健康)として実施しました。

